

楽しい幼稚園の構想

埼玉師範學校教授
附屬幼稚園主事

井 手 達 郎

幼稚園と國民學校の兩方へ關係する私は、いつも素直で朗かな、そして健康な子供が幼稚園から國民學校へ入つて呉れたらどんなによいだろうと思ひます。勿論この意味は、一般の家庭で誤つて考へるようには、幼稚園の保育が國民學校に入る準備としてでなく、其の時期の子供の心身發達に適應した保育機關として、換言すれば國民學校へ入る手段としての幼稚園でなく、其の年齢の子供そのものを育成するところではなければならぬと思ひます。こうして國民學校へ入つた後は、よい實を結ぶと云う意味で、準備と云う言葉を使うのならばよいと思ひます。

私の望む子供は、幼稚園が子供にとつて「楽しい幼稚園」になつて初めてつくられると思ひます。

(一) 叱らない保育は素直な子供をつくる

幼稚園の主體はどこまでも園児であります。どんなに立派な建物や設備や費用があつても又經驗ある立派な保母さんが揃つて居られても園児がよくならなければ何にもなりません。園児は純心で誠に神の如き存在であります。

キリストが「子供でなければ神の國に入ることは出来な

い」と云つたのは最もよく子供を知るものと云えましよう。

子供は子供なりにゆがめずに育てたいと思ひます。大人の世界より見れば不完全であり、又無作法であるかも知れませんがそれを無理に大人の型を小さくした子供の型をつくつてこれにあてはまらないから叱ると云う保育の仕方は、「角を矯めて牛を殺す」類であります。子供は決して叱つてはなりません。叱る保育は心から保母に従はないばかりでなく表面的なもので、知らず／＼二重人格の子供をつくることになります。こんな子供は子供自身不幸でありますし、又國民學校に入つても誠に始末の悪い子供になります。子供のいたすらは、誠に無邪氣なものでありますから、叱つたり抑えつたりせず活動の芽をよい方へ轉換させる努力を惜んではなりません。こうした努力が素直な子供をつくることになると思ひます。

(二) 楽しい戶外遊び

戦争のため戦災をうけたり又敗戦國として物資不足の折柄、設備の點に於て不足の現在は、尙更のこと又都會地帯等で止むを得ず、室内保育が多くなることは仕方ないとしても近くに廣場や公園や其他の遊び場のある幼稚園では、極力屋外保育に努めていたゞきたいと思ひます。子供が如何に自然の子であるかは一度部屋を出て外で遊ぶ子供を御覽になれば納得がゆくと思ひます。

砂場があれば結構ですが、例え其の設備がなくとも土いじりは何處でも出来ませす。ジャンゲルの代りに立木をつかい、積木の代りとして木片や石をつかつて立派な遊び道具がつくられます。この子供の創造の世界は實に私達によい暗示を與えて呉れます。子供の生活がよくわかり子供の性格のつかめるところは自由遊びの時であり、わけても屋外保育に於ける子供の遊びの場合であります。御部屋のなかで天氣のよいのに本を讀んだり、くすぶつてこそくしてゐる子供には、明るさがなく元氣のない社交性を持たない子供です。その上健康でない子供の場合が多いのです。暑い時も寒いときも元氣に外を飛び廻る子供は健康な子供であります。どんな立派な人格を持つていても又尊敬すべき人物であつても、身體が弱かつたら社會人として完全な働きは出来ませせん。そのことから云つても戶外で子供に充分な活動をさせたいものです。

(三) 音楽が樂しめる子供

文化國家を擔い將來文化人として起たなければならぬ子

供は、小さい時から充分耳の訓練がなされなければなりません。音楽の教育は早い程よいと云われています。子供がリズムで器用に動作し、口で云うより音楽によつて素直にすばやく動く子供の姿を見る時、あの子供がよくもあれほど出来る様になつたと、音楽の持つ一つのマジックを見る様な氣がします。楽しい御砂場遊びも、お集りも、御食事も、あとかたづけも、御歸りも、一切がリズムや音楽の進行につれて自然に行われ、これが子供の身につけて行くことは幼稚園保育の最も大切な仕事の一つでありましょう。

この様な音楽への子供の態度が、國民學校の音楽に結ばれてゆくことが望ましいのであつて、幼稚園は國民學校の子供が歌う歌を習わせることでもなければ、そのまねをさせることでもありません。幼兒には幼兒らしい歌の手ほどきがなされ、その基礎の上に國民學校の音楽が築かれてゆくべきであります。私達も氣持のよい時自然と歌を口ずさむ様に、歌のない子供は明朗さが少い様に思ひます。

(四) 自分のことは自分でする子供

子供が幼稚園で身につけるもう一つの大切なことは、集團生活になれることでもあります。一人息子も、姉妹の多い家の子供も、ぜいたくな子供も、普通の家庭の子供も、幼稚園では一對一であつて、こゝではわがまゝは通りませせん。もしわがまゝを通そうとすると、他の子供に遊んでもらえません。そして譲り會うことの大切なことを知らされます。人に

親切にすれば楽しい遊び、友達がたくさん出来て来ます。この様に子供は子供なりの社會生活をいやでも體驗させられます。家で自分の思う通りに振るまうよりも友達と遊ぶことが面白くなつて来ます。

今迄人手を借りなければ出来なかつた衣服の始末から、お食事やお便所に行くことも、更に御手傳や跡かたづけも、お歸りの用意までも自分でしなければなりません。

又思想畫を描くことや、手技をすることによつて、クレヨンやはさみの使い方の基礎的のものが、しつかり身につくことが大切であつて、うまく描いたり上手につくることが第一義ではありません。正しい取扱方法が身につけばあとは子供の興味と努力が自然に上手にして呉れる筈です。靜かに觀察することにしてもそれが楽しい遊びの中の興味からのものであることが大切で、今迄の様に叱つて靜かになつたものであつたり保姆さんの都合からの躰であつたりしてはならないのです。あくまでも子供が楽しむ遊びの中に生れたものでなければなりません。だいたひ子供は注意力の持續が困難であり、じつとしてゐることが出来ませんから、氣永に辛抱くらべをするつもりで取扱う用意が必要です。

最初に述べた様に幼稚園では、國民學校への智識注入式の準備の必要もありませんが、學校へ入るのだからと云つて、たゞつめこみに五十まで數えたとか、假名が全部讀めたとかを喜ぶ母親がありますが、それは實にくだらぬことで、却つてそれが爲その子供を誤らせることに氣がつかないのです。

そんな準備をするよりもつと生活指導に家庭が協力してほしいと思ひます。

(五) 子供の爲の保姆さんとなつて下さい

楽しい幼稚園には子供を樂します保姆さんがなくてはなりません。どうか、いつもにこにこと明るく子供と遊べる保姆さんになつて下さい。どうしても云う事をきかない時は、靜かにさとして下さい。子供がなつかない保姆さん、ほんとうに子供が親しめない保姆さんは、楽しい幼稚園の保姆さんとしての資格がなさそうです。手技や觀察や繪や紙芝居や御話や遊戯もさることながら、ほんとうに子供がわかるのは自由遊びの時です。その大切な時に子供を放任して何か用事をしている保姆さんは居ないでしょうか。私は自由遊びの中の子供の生活をもつと研究していただきたく思ひます。

次に子供をほめることを忘れないで下さい。どんなに下手な繪を描いても、歌が上手でなくても、遊戯がまずくとも、動作がぶくても心からのほげましを子供に與えて下さい。どんなに力がつくことでしょうか。そしていじらしいまで元氣な子供になつて行くことは間違ありません。子供が一日でも幼稚園に來ない日があれば、どうしてもその子の家庭を訪ねずには居られない子供への愛情、即ち母親のあの愛がほしいのです。然しその愛は盲目の愛では勿論ありません。子供を正しく伸ばす爲の眞實の愛がほしいのです。どんな頑な子供の心もとかし、どんな氣の弱い子供にも、元氣の泉をあたえ

る深い愛の持主となつていたと思ひます。敗戦後の今日、設備も費用も不十分であります、たつた一つこれを補うものがありとすればそれは實に保母さんの子供への愛情だと云えます。この愛情が保母さんであれば、ないないすくしの中に立派に新しい日本を背負つて立つ子供になつて呉れることを確信してゐます。そしてその愛情は幼稚園だけでなく、國民學校に入つた後もなくなるものでなく、幼稚園時代の實態としての保育記録はそのまゝ國民學校教育の教育に役立つものでなければなりません。又反面國民學校からの觀察の結果を知らせて貰ふことによつて、次の保育に精進する力となるものでなければなりません。

最後に國民學校教育への御願があります。今日の國民學校教育の中には、案外保育の効果を輕視される方の多いのは誠に残念なことであります。『まあ幼稚園から來れば集團生活の結果多少なれてるので家庭より初めて入學した子供に比べてよいが、そのうち區別がなくなりますよ。』と云うことを平氣で云う人があります。この教育は、折角幼稚園で啓發した集團生活への芽生えを伸ばすことを忘れて未經験の子供にのみ氣をとられた結果、悪い意味での劃一にして喜んでいるのであります。折角身についた生活への芽を育てあげるのが今日の教育ではないでしょうか。幼稚園から來た子供は慣れずぎていけないと云うが、その長所を伸ばす工夫をせず、又正しい方へ向かわせる努力が考慮されずに、保育の効果について

近視眼的であることを残念に思うのであります。私は現在の國民學校の教育が、もつと眞剣に幼児教育を研究しなければ、到底低學年教育の効果はあがらないばかりでなく、保育の効果まで減殺して竹に木をついだものにすることを恐れるものであります。かゝる缺點を除去するには、前述の様にもつと國民學校教育に保育を研究していただくことも一策ですが、より望ましいことは就學前保育した保母が教官としての實力を持つて、引つゞき國民學校一年の擔當教官となること
が理想的だと思つておられます。

(一五五よりつづく)

歌わせたりするような場合、できるだけこれをそのからだのはたらきにうつたえて味わわせるようにすることが、極めて自然であり、また有効であるということになる。

幼稚園などでよく一つの唱歌を歌わせ、それに大人の人のつけた遊戯を教えているのを見かけるが、私は特に音楽や遊戯に興味を持つて居られる幼稚園の先生方に一つの提言をし御研究をお願いしたいと思つておられる。

それは音楽を聞かせたり、唱歌を歌わせたりする時に、お子さん方の身體的な活動が或る型にはまつた振というものに支配されないで、もつと自由に表現されなくてはならないのではないか。そしてそれが靜かに音楽を聞くとか、先生の口眞似をして歌のふしや言葉を感じるということに先行しなくてはならないのではないかと云うことである。もちろん大人のつくつた振を教えるということにはまた別な意味があるうが、自由を喜ぶ子どもたちの遊戯性をたつとぶという意味からもこのことを深く研究していただきたいと思つておられる。